

湘南日独協会 会報

Der Wind

(風)

湘南日独協会会報(Der Wind)
VOL. 12. NO. 5. 通巻71. 発行 2010. 9. 12.

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan

事務局：〒251-0025 藤沢市鶴沼石上1-1-1

江ノ電第2ビル7F

TEL0466-26-3028 / FAX0466-27-5091

Oktoberfest

オクトーバーフェスト

予約は済んでいますか？

10月3日(日) 18時30分

グランドホテル湘南

「日独交流 150 周年記念行事」

2011 年は日独修好通商条約調印(当時独は北プロイセン)後 150 周年記念の年となります。当湘南日独協会が直接間接に関与する予定行事には主に次の様な計画があります。今後逐次詳細をお知らせ致します。会員の多くの皆様の積極的な参加とご協力をお願いします。

2010 年 10 月 16 日(土)

東京横浜ドイツ学園での開会式

2011 年 4 月 14 日(木)

独日協会連合会会員約 60 名がドイツから来訪され横浜鎌倉の観光、その後湘南日独協会会員との交流会を鎌倉で開催

11 年 4 月 24 日(日)

全国日独協会連合会総会(奈良)

2011 年 4 月 25 日(月)

日独交流 150 周年記念式典(奈良)

2011 年 5 月 9 日(月)

湘南日独協会主催日独交流 150 周年記念

「日独音楽家の集い」演奏会を鎌倉芸術館

2011 年 11 月 3 日 横浜大榎橋ホールでの閉会式

(開会式閉会式はドイツ大使館主催)

ドイツ語講座後期(10月～3月)の募集

初級 毎週月曜日 17:45 ～ 19:15

中級 毎週土曜日 9:30 ～ 11:00

場所 JR 藤沢駅近く

受講料 一般 43,000 円(20 回)

会員 38,000 円(20 回)

申込、お問い合わせは以下にお願いします

松野 Tel 0467-32-7300 Fax0467-32-7387

e-Mail matsunoy@kamakuranet.ne.jp

湘南日独協会の活動予定

■ 10 月 3 日(日) 湘南オクトーバーフェスト

時間: 18:00 開場 18:30 開演

グランドホテル湘南(藤沢市旭町)

エーデルワイス・トリオや合唱団アムゼルが出演、

今年も楽しく！ブロースト！乾杯！

■ 10 月 31 日(日) かまくら国際交流

フェスティバル 2010

時間: 9:30 ～ 15:00

場所: 高德院(鎌倉大仏)

2 年振りに出店します。是非お越し下さい。

また、フランクフルターソーセージの販売もします。

お手伝い頂ける方は事務局へご連絡下さい。

■ 7 2 回月例会

日時 11 月 21 日(日) 18:00 ～ 20:00

講師 織田 正雄氏 当協会会長

「ベルリンの壁崩壊の前後一年の記録」

現場に立ち会った生々しい証言と DVD の映像による世界に变革をもたらしたベルリンの壁崩壊前後の講演です

会場 江ノ電第 2 ビル 7 階

会費 1,000 円

■ 12 月例会は例年のように望年会を開催する予定です。

多くの会員の皆さまのご参加を頂き親睦をはかりましょう。日時、会場等決定次第お知らせいたします。

会則の一部改訂

正会員、家族会員に加え、学生会員を新設し会費を年額 2,000 円、入会金は不要と致しました。ドイツ語講座や例会、懇話会の充実も図っています。どうぞ皆様のお近くの方々に湘南日独協会へのご加入をお勧め頂きたくお願いいたします。

事務局には「湘南日独協会入会のお勧め」の新版を用意しております。ご希望の方はどうぞご連絡下さい。

新入会員紹介

池田 純江

敬称略

(前7月号からの続きです)

続『ヴァイマル探訪記』

会員 寺田 雄介



実はこのドイツ国民劇場で、私はシャンソンを楽しんだのです。さすが音楽の国ですね。フォーマルな服に身を包みながらも、誰もが心から音楽を楽しんでいるのが伝わってきます。指揮者のように手を動かす観客もいれば、サビの部分で体を揺らし、表情をほころばせる観客もいます。コンサート後には拍手が鳴りやまず、出演者のほうが根負けをして、4度目のカーテンコールでついにアンコールを歌ったほど。いわゆる「お約束」の拍手ではなく、心のそこから賞賛している雰囲気は、非常に心地よいものでした。



三日目は、まずアンナ・アマーリア公爵夫人図書館へとを運びました。ヴァイマルで私が一番感銘を受けたのはこの図書館でした。ここは前日までにツアーに申し込み、指定された時間に団体で入館しないと、見学できません。是非一度は見ておいたほうがいだろうと、ゼンゲさんが僕のために申し込んでおいてくれたのです。内部は撮影禁止なので、お見せできないのがとても残念です。

2004年にアンナ・アマーリア公爵夫人図書館は火事に遭い、ロココ様式のホールが丸焦げになるという災難に見舞われました。所蔵されている本も少なからず焼失しましたが、ドイツ人は持ち前のゲルマン魂(?)で傷んだ本をこつこつと修復しました。その修復の過程は館内のビデオで紹介されているのですが、本当に緻密な手作業で驚きました。残った紙の部分を傷つけないように、黒こげの部分に新しい紙を貼って一枚一枚補強するのです。気の遠くなる作業です。そしてついに2007年に再び開館にこぎつけ、今に至っています。

夜はヴァイマル独日協会の副会長であるパウハウスさんと合流し、ゲーテの愛したクリスチアーネが眠っているヤコブ教会へと向かいました。そこでは曲目がヴァイマル出身の音楽家の作品だけの演奏会が行われたのです。合唱隊が正面だけでなく、二階の左右にも分かれて歌うので、歌声が三方から立体的に聞えてくるという神秘的な演奏会でした。

その後、パウハウスさんとゲーテの家の隣にある『白鳥亭』というレストランに移動し、夕食をご一緒しました。以前、この『白鳥亭』には、天皇皇后両陛下もお越しになったことがあるそうです。一般客は立ち入り禁止なのですが、支配人さんにお願いして、特別に天皇皇后両陛下がお食事された部屋を見学させていただきました。お店の三階にあり、今もVIPの接待以外では使わないそうです。「何をお召し上がりになったのですか?」と聞いたところ、「天皇陛下専用のコース料理だったようです」とのお話でした。記念に天皇皇后両陛下のお写真の前で、写真を撮らせていただきました。瞬く間に最終日になりました。午前中は街の中心部から少し離れたところにある、ヴァイマルよかりの偉人たちが眠っている墓地へ行きました。



(次号へ続きます)

Pause! ちょっとひとやすみ!

ベルリン、ドレスデン、ハンブルク、ケルン、ミュンヘン、リューベック、ポツダム、オットーボイレン、ローテンブルク、アルペン街道、ガルミッシュ・パルテンキルヘン、メクレンブルク湖沼地帯、モーゼル渓谷、ザクセン・スイス、シュヴァルツヴァルト、ツークシュピツェ、ノイシュヴァンシュタイン城

この有名地の羅列は何だと思いませんか?皆さんの多くの方が既に訪れたり未だであれば近く是非に行きたいと思っておられることでしょう。ミシェラン社発行の旅行案内書で三つ星を付けられた名所です。

♪♪ 会員情報 ♪♪

会員西川麻里子氏のピアノ演奏会の案内です。

SENZOKU Masters Concert Series (9月~10月)

「10人のピアニストによるピアノアンサンブルの夕べ」

日時 10月21日(木) 18:30 (開場18:00)

会場 洗足学園 前田ホール (全席自由)

一般3,000円 学生1,000円

なお、シリーズには次のプログラムが入っています。

9月26日(日) 17:00

オペラ「フィガロの結婚」全4幕 日本語

9月28日(火) 18:30

「ピアニストになった作曲家」ピアノのジョイント

10月14日(木) 18:30

「イタリアンドラマティックナイト」

テノール、バリトンのデュオ

お問合せ先: 洗足学園 電話044-856-2981

7月例会

「クニフラー/イリス商会の歴史」を傾聴して
幕末日本に想いを馳せる

会員 廣川 貴男

7月25日に催された(株)イリスの顧問・佐藤剛氏による講演「クニフラー/イリス商会の歴史」は、まことに興味深く、蒙を啓かれること少くなかった。氏が顧問を務める(株)イリスとは、幕末の安政6年(1859)長崎にやって来た二人のドイツ人、クニフラー(Louis Kniffler)とギルデマイスター(Martin Hermann Gildemeister)によって創業された150年余の歴史を持つ商社である。



(講演する 佐藤剛志氏)

明治13年(1880)、時の支配人イリス(Carl Illies)の名をとって、C. Illies & Co. と社名を変更し今日に至っている。佐藤氏は同社のハンブルク本店に保管されていた創業以来の古文書に接する機会があり、(株)イリス退社後の今もその解説作業を続けられているという。独・仏・英の諸語で記された157通ものこれら書簡類は貴重な一次資料という他なく、在来の同工異曲ばかりの幕末関連歴史書からは窺知できぬ、秘話、裏話の類いが散りばめられている。パソコン・プロジェクターを使って紹介された多数の図版の中には、慶応3年2月、クニフラー商会と土佐藩の後藤象二郎、の間で取り交わされた船舶の売買に関する約定書も含まれている。

クニフラー/イリス商会150年史の中でも取分け興味を覚えるのは、幕末の創業間もない時期の事共である。2001年3月の湘南日独協会の例会で、「幕末日独交流史余聞〜シュネル兄弟の事跡」と題し、多数の会員の前で発表したことのある私にとって、クニフラーは未知の異人とも思えず、共に武器を取扱うプロイセンの商人として同時期に来日したシュネル兄弟(Schnell, Edward/Henry)とクニフラーは、日本の何処かで会ったことがあるのではないか、と思えるのである。司馬遼太郎に倣って言えば、ビル上の屋上から眼下を行き交う行人を眺めるとき、これまでお互い没交渉と考えられた二人の人物が、すれ違いざま、会釈か握手でもしていたのでは、などと歴史を俯瞰しつつ妄想することに密かな喜びを感じるのである。

クニフラー商会を含め日本に進出していた外国商社がこの動乱期、どのくらいの量の兵器類を、どの藩に、如何程の金額で商っていたか、詳細なデータが分かる

と、戊辰戦争を新たな視点で照射できるのだが。と言うのも、この戦争の勝敗の帰趨には、使用した武器の優劣・数量が大きく関わっているからである。幕末の横浜でアメリカ人ヴァン・リード(E. M. van Reed)が刊行していた「もしほ草」という新聞の慶應4年9月10日付けの一節には、次なる記述が見える。「…当時仙台・会津・米沢・庄内にて日本国中の官軍を相手にとり戦うとなれば、敵に新手を入かえせめられ、力つきるにいたるべしと、外国人これを案ぜり。殊更南方の兵は、亜米利加製のスペンセル元込の銃を用い、北方の兵は古風なるゲベールを用い、敵十発の内僅一発を放つ事なれば、今春鳥羽伏見の敗北もどうようの訳なり。かく兵器あしくては勝利を得べき見据えなく、日の漸々と没く如く亡びん事いかにもきずかわし。」

日本での内乱中、滞日外国勢は幕府側の通達に基づき、表向き局外中立を守っていたが、“死の商人”として暗躍する外国の武器商人は、そんな事お構いなしに幕府軍・討幕軍双方に小銃や大砲を売っていた。

戊辰戦争が終結をみる明治2年(1867)5月に至る幕末の十数年間に輸入された小銃の数量は、洞富雄氏等、斯界の専門家達の試算によると、70万挺とも80万挺とも推計されている。その種類はゲベール銃の如き前装滑*の旧式のものから、スペンサー銃・シャスポー銃のような後装施条の最新銃まで89種の多きにのぼっていたのである。幕末の日本は宛ら銃器類の国際見本市の如き観を呈していた。鉄砲の性能は日進月歩する。戦争ともなれば更に加速する。そして戦争が終われば、蔵にしまわれ旧式化が進む。兵器類の持つこうした宿命は、武器商人にとって恰好のネタになる。アメリカは1861年4月から65年4月迄4年に亘る南北戦争で、多くの武器が開発され生産され使用された。終戦と伴にお蔵入りとなり、やがて廃銃の道を辿る。南北戦争に先立ってドイツやイギリス、フランスも一度ならず戦争を経ている。武器は他国の紛争地域に持って行けば、需要はいくらでもある。単価も高く大量に消費される。”死の商人”がここに目を着けぬ筈がない。今日に変わらぬ武器市場の殷賑振りである。グラバー(Thomas Blake Glover)然り、シュネル兄弟然り。一介の武器商人が一国の運命を左右しかねない影響力を持つのである。グラバーなどは薩摩藩との盟約により、同藩に大量の兵器を供給し、西軍を勝利に導いた功労者として、明治41年(1908)時の政府(薩長閥)から勲二等旭日重光賞を贈与されている。創業期のクニフラー/イリス商会の場合はどうであったのだろうか。私の最大の関心はそこにあった。

*は月偏に唐です (編集人)

京都からの参加者も！

この講演会には京都から駆け付けた方がおられました。根木大助氏です。当協会の講演会・例会も全国的な催しになりつつあります。

私とドイツ (2)

「ライブツィヒー私の好きな街」

会員 三宅 芳子

東西ドイツが統一されるまで、ライブツィヒは東側にあり、発展・繁栄を辿る西ドイツとは異なりその速度も遅々として進まず厳しい制約もあり、なんとなく暗いイメージのすることもありましたが、それだけに時がゆっくりと流れているようで私の好きな街でした。



(トーマス教会)

此の街は商業都市としてドイツで最初に見本市が生まれた所とか、春秋開催される国際見本市は有名でそれ以外にも種々の多くの見本市があり、その活動で得られたと富で学術や文化都市として早くから発展してきたと言われ、森鴎外や山田耕作も此処で学んでいたそうです。印刷・出版も盛んでブラーグ通りに本の館があり、私もシラー通りにある楽譜屋さんによく行きました。商業・文化・大学・音楽等色々な顔をもった街です。

メンデルスゾーンのパiano三重奏を弾くための勉強をするために行っていた私は、インターナショナル・メンデルスゾーン協会の会員として、フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディの没後百五十年祭(1997年11月)に合わせ彼がゲヴァントハウスの指揮者を務め作曲などして最後に暮らしたゴールド・シュミット通りにある家を彼が住んでいた当時そのままに修復し、彼が使っていたピアノ・楽譜・デスマスク等の展示、また一部を音楽生のための宿泊施設として再現するため、多少でも支援の役に立つことを願っていました。

彼の没後百五十年記念のクルト・マズア氏指揮のゲヴァントハウスでのフェスタでは新たに見つかった未発表の曲、オラトリオ「エリア」等が演奏され、また彼を記念した彼のブロンズ像がゲヴァントハウスにステンドグラスがトーマス協会に贈られ飾られるなど、メンデルスゾーンはヨーロッパの音楽文化に様々な影響を与えた重要な音楽家で、彼がドイツで最初に設立した音楽院は、現在ライブツィヒ音楽演劇大学になっているにも拘わらず彼がユダヤ人だからでしょうか、ライブツィヒで



(メンデルスゾーン像)

音楽と言えば、ヨハン・セバスティアン・バッハが先に出てくるようです。バッハについて述べると大変です。今回は簡単に・・・。

バッハはカントルとして教会・市参事会・大学等の音楽活動すべてのライブツィヒ市の音楽総監督でバッハが眠る



(トーマス教会の合唱団)

トーマス教会その聖歌隊は、バッハの音楽遺産を紹介するのが使命と言われ毎週金曜土曜の午後カンタータやモテット等を聴くことが出来、教会の向こうにあるトーマスキルヒホーフのボーゼハウスにバッハ博物館があり、彼の生涯と作品を知ることが出来ます。またバッハが演奏したと言われる中庭で今も室内楽のコンサートが開催され、恰もバッハの時代が蘇るかのよに感じるのには私だけなのでしょうか。

ライブツィヒは旧市庁舎・ニコライ教会・アウエルバッハケラーやショッピングアーケード等数多くの史跡・建造物・市場やお店のある楽しいところです。

(写真は筆者三宅氏のご提供です)

~~~~~

## 8月懇話会

「神聖ローマ帝国＝ドイツの歴史を知るキーワード」 講師 会員 西澤 英男

8月末の土曜日の夕、多くの参加者がありご本人が収集した貴重な資料を映像を用いての熱い講演会でした。ローマ帝国から神聖ローマ帝国へ、そしてローマ法王との関係、その後の宗教改革、30年戦争、ハプスブルク家、神聖ローマ帝国の解体までの歴史をドイツを中心に講演頂きました。熱心な質疑も続き、次回の講演希望する声も多く、二次会盛り上がりしました。



=====

## 編集後記

Pauseのコラムは、宮下啓三先生ご提供の内の一部を使用させて頂きました。

寺田雄介さんの「ヴァイマル探訪記」は次号が最終となりますが、その後は「ベルリン通信(仮題)」をお願いしたいと考えています。

オクトーバーフェストを楽しみましょう！！

★★ 湘南日独協会のホームページは ★★

URL : <http://jdg-shonan.ciao.jp/index.html>

「全国日独協会一覧」からもアクセスできます。